

特集

世界天文年キックオフシンポジウム

～宇宙・地球・生命 みんなで解き明かすために～

開催報告

矢治健太郎、安藤享平

(天文教育普及研究会 世界天文年ワーキンググループ)

日時：11月23日(日)13時から14時30分

場所：東京国際交流館・国際交流会議場

主催：世界天文年2009日本委員会

後援：天文教育普及研究会

自然科学研究機構 国立天文台

参加者：160名



図1 キックオフシンポジウム Web バナー

来年の「世界天文年2009」を控えて、世界天文年2009日本委員会主催・当会后援のプレ企画として、表題のシンポジウムがサイエンスアゴラ2008会場内にて行われました。

当日は、160名の参加者があり、事前申し込み制でもありましたが、当日の参加者もかなりありました。中には、仙台をはじめ、かなり遠方からという方もみえ、関心の高さを感じました。

シンポジウムはまず、海部宣男氏(世界天文年2009日本委員会・委員長)から、開会挨拶と世界天文年の概要・世界の動向の説明がありました。

「世界天文年をみんなで創りあげよう」という力強い呼びかけとともに、世界天文年2009の理念や、多くの世界企画について、参加者へと語りかけ、キックオフの雰囲気盛り上がり上がっていきました。

ついで、渡部潤一氏(世界天文年2009日本委員会・企画委員長)から、「日食グラス」や『『君もガリレオ』プロジェクト』「巡回展」などの、日本委員会主催の国内企画を中心に説明がありました。この後の質疑でも、会場からも企画に関する質問があり、関心の高さと国内企画への期待が伺われました。

休憩では、ホームページ上でも公開されている、世界天文年のトレーラーの上映が行われました。[1]

休憩後は、「世界天文年で活動し、共に発見していくために」というテーマでパネルディスカッションが行われました。



図2 パネルディスカッションの様子
(写真提供：世界天文年2009日本委員会)

進行は渡部潤一氏、コメンテーターは海部宣男氏、そしてパネラーは以下の4名です。

有本淳一氏（京都市立塔南高等学校）
 梅本智文氏（国立天文台）
 小貫良行氏（理化学研究所）
 平野都子氏（元プラネタリウム解説者・
 天文ボランティア）

学校教員、天文学者、若手研究者、ボランティアなど多様な立場から、世界天文年に向けての抱負を思い思いに語っていただきました。

- * 小さな望遠鏡を鞆に入れて持ち歩き、居酒屋で知り合った人にも星を見せたい
 - * 簡単に工作できる、プラネタリウムキットを学校で活用できるようにしたい
 - * 駅前などの繁華街で観望会を企画したい
 - * 星がきれい、と語るどころから始めるといったコメントから、ディスカッションの中で、
 - * さまざまな困難を克服してでも、学校の生徒全員に来年は天体観察の機会を提供したい
 - * 天文分野が得意でない先生方へ、天文への理解を深めてもらうための機会を設けたい
 - * 気軽に、身近なところで星の話題を出すことを積極的に行いたい
 - * 宇宙の起源でマクロとミクロの素粒子が会う不思議を伝えたい
 - * 天文学者であることを、居酒屋でカミングアウトして、周囲を巻き込んでいきたい
- といった、多くのアイデアと構想が語られました。

パネルディスカッションを通して、

「世界天文年は各々が作り上げていく」

というメッセージが伝わる内容となりました。会場からも世界天文年に向けて、期待することや抱負などのコメントがありました。

こうして、世界天文年へのキックオフシンポジウムは、時間が足りなくなるほど多くのアイデアが出され、活動実施に向けての意欲が高まる時間となりました。

なお最後となりますが、シンポジウム開催にご協力いただいたみなさまに感謝いたします。

文 献

[1] トレーラーは、IAU（国際天文学連合）の IYA2009 ワーキンググループが提供する予告編ムービー（2分30秒）の日本語字幕版が上映されました。

なお、このトレーラーには各国語版が用意されているほか、日本委員会企画のショートムービー（30秒）もあり、Web からダウンロードできます。

矢治健太郎

安藤享平